

第 1 回～第 4 回までに行った取組推進方針に基づく取組の個別検証（まとめ）

【取組】（例題）子ども向けまちづくり活動啓発パンフレットの作成、配布

委員による評価	◎取組推進方針について【内容/スケジュール/方向性】 取り組み内容について、目的達成、課題を解消していくことができそうか。
／10 人	5. 目的が達成できる。課題が解消できる。発展性がある。(81～100%)
2 人／10 人	4. 目的を達成することが可能だと考えられる。課題解消の期待がもてる。 最大限の取り組みだと考えられる (61～80%)
1 人／10 人	3. 目的達成、課題解消をするためには、一部改善を加えたほうがよい (41～60%)
1 人／10 人	2. 目的を達成するためには、不足している部分がある (21～40%)
／10 人	1. 目的の達成が困難だと思われる。効果があまり期待できない (0～20%)
委員による評価	◎取組状況などについて【取り組んだ内容/実績】 取り組んだ内容及び実績について、目的が達成できたか。
／10 人	5. 目的が達成されている。課題が解消できている。発展している。(81～100%)
1 人／10 人	4. 目的を達成するため、このまま継続して取り組むべき (61～80%)
1 人／10 人	3. 目的を達成するため、一部改善を加えて取組を継続すべき (41～60%)
2 人／10 人	2. 目的を達成するため、不足している部分を追加して継続すべき (21～40%)
／10 人	1. 効果があまり期待できない。別の新しい取り組みを検討すべき。(0～20%)
委員による評価	全体評価
／10 人	5. 目標が十分に達成され大いに評価ができる
／10 人	4. 目標達成に向けた取組ができている
2 人／10 人	3. 一部見直しが必要
1 人／10 人	2. 全体的な見直しが必要
／10 人	1. 取組としての掲載不要
1 人／10 人	その他
自由意見・コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座等の依頼が更に増加するような広報活動の工夫を検討していただきたい。 ・小中学校の授業で活用していただくように依頼する。 ・配布するだけでは見ない子どもも多いと思われるため、理解させるには先生の説明が必要である。 ・パンフレットの紙質がよすぎるのではないか。イラストが多いのは評価できるが、同じものの使い回しが多い気がする。イラストの種類を変えたらどうか。 ・小学生にはよいが、若者が手に取りやすいものではない気がする。 ・地域が課題解決のための事業に「子ども向けまちづくり活動の啓発・参加」を取り入れる。 	
まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの問題等があるが、可能であれば学校の授業で活用してもらうなど、今後の利活用の手法について検討する必要がある。 ・これからの主権者となる子どもに対して、地域や家庭内でも啓発活動を行い、まちづくりへの参加を促していくと良い。 	

市民の役割・市民ができること

- ・まずパンフレットを手にし、読むこと。
- ・家庭での話題にできるようにする。
- ・区長会やまちづくり推進組織の各種事業に子ども向けのまちづくり活動や啓発事項を盛り込み、それぞれが取り組む。
- ・ターゲットを絞った取組みにすると良い。小中高生が参加しやすい環境づくりが大切である。
- ・まちづくり推進組織の大人の方でさえ認知されていない部分がある。子どもへの啓発だけでなく、大人も広く市民の方に知っていただけるように努力しなければならない。
- ・教育委員会を通じて活用を促していく必要があると思われる。
- ・パンフレット中の「考えてみよう」の項目について、グループワークで使用し、意見を出していくことが有益であると思う。
- ・授業の内容に無理がない範囲で、関連する部分についてグループワークを提案することが効果的ではないか。

行政の役割・行政がやるべきこと

- ・子ども向けとしては良いが、若者向けも作成してほしい。18歳～30歳は手に取りにくいと思う。
- ・お祭りなどのイベント時にコーナーを作ってはどうか。
- ・化石博物館等でコーナーを作ってはどうか。
- ・パンフレット配布場所に意見集約のための目安箱のようなものを設置したらどうか。
- ・積極的に出前講座を行うなど情報発信の強化。
- ・区長会やまちづくり推進組織へ「出前講座」の取組みを提案する。
- ・パンフレットはとてもよくできていると思うが、大人が読んで理解できるレベルではないでしょうか。小学生レベルでも簡略的に理解できるパンフレットも欲しい気がする。
- ・子ども会議などで、児童、生徒、保護者等の意見を吸い上げ、必要に応じてパンフレットを改訂していく。
- ・子どもたちが成長に応じ、将来、市民としてまちづくりに参加する意識を高めていけるよう、教育委員会など各課が連携していく仕組み作りが重要である。

新たな取組提案・アイデア

- ・授業で活用した際の意見の集約をする
- ・授業だけで終わらないような工夫が欲しい。宿題にしてもらうなど、家庭で話せるように一般世帯にも同時配布する。

第 1 回～第 4 回までに行った取組推進方針に基づく取組の個別検証（まとめ）

【取組】①まちづくり活動拠点施設の整備

委員による評価	◎取組推進方針について【内容／スケジュール／方向性】 取り組み内容について、目的達成、課題を解消していくことができそうか。
／10 人	5. 目的が達成できる。課題が解消できる。発展性がある。(81～100%)
5 人／10 人	4. 目的を達成することが可能だと考えられる。課題解消の期待がもてる。 最大限の取り組みだと考えられる (61～80%)
2 人／10 人	3. 目的達成、課題解消をするためには、一部改善を加えたほうがよい (41～60%)
／10 人	2. 目的を達成するためには、不足している部分がある (21～40%)
／10 人	1. 目的の達成が困難だと思われる。効果があまり期待できない (0～20%)
委員による評価	◎取組状況などについて【取り組んだ内容／実績】 取り組んだ内容及び実績について、目的が達成できたか。
／10 人	5. 目的が達成されている。課題が解消できている。発展している。(81～100%)
3 人／10 人	4. 目的を達成するため、このまま継続して取り組むべき (61～80%)
3 人／10 人	3. 目的を達成するため、一部改善を加えて取組を継続すべき (41～60%)
1 人／10 人	2. 目的を達成するため、不足している部分を追加して継続すべき (21～40%)
／10 人	1. 効果があまり期待できない。別の新しい取り組みを検討すべき。(0～20%)
委員による評価	全体評価
／10 人	5. 目標が十分に達成され大いに評価ができる
4 人／10 人	4. 目標達成に向けた取組ができている
／10 人	3. 一部見直しが必要
／10 人	2. 全体的な見直しが必要
／10 人	1. 取組としての掲載不要
3 人／10 人	その他
自由意見・コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の住民が拠点施設の有益性を理解できているか疑問。 ・まちづくり事務室での集落支援員同士の情報交換や共同事業の推進等に大いに期待。 ・各地域が周知するための工夫が更にできるのではないか。 ・受け身の状態では発展はなかなか見られないと思う。 ・調理ができる部屋があると良い。料理教室など地域の公民館施設にはある。 ・利用方法が限定されているので、調理室などいろいろ活用できる設備があると良い。 	
まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の工夫を行い、利用者が増えるよう施設運営に努める。 ・各地区が自ら情報発信に取組み、市民も積極的に情報収集、情報発信に努める。 	

市民の役割・市民ができること

- ・（市役所西分庁舎には、）特に用事が無ければ訪問することがないと思うが、興味がある方は気楽に入って、情報発信コーナーで情報を集めていただきたい。
- ・積極的に関心の高い事柄を示す。
- ・拠点施設を積極的に活用し、活性化に参画すること。
- ・他地区の情報を収集する。
- ・他地区の方に知ってもらうためにポスター、掲示物の工夫をする。
- ・まず足を運ぶこと。自ら情報を得ること。
- ・施設に人を集める工夫。
- ・施設でイベント等を企画し、集客することで知ってもらう。

行政の役割・行政がやるべきこと

- ・西分庁舎にどの部署があるか知られていない。PRの方法を工夫して、多くの市民に知ってもらい、利用してもらおう。
- ・公共交通の利便性を図るなど、拠点施設に市民が集まれる仕組みづくり。
- ・定期的な行事を展開する。
- ・市民に対する拠点施設整備のPR。いかに来てもらうか。
- ・集落支援員のまちづくり会議への参加による、具体的事例発表。
- ・集落支援員にどのような役割をしてもらうか。
- ・選挙時など施設利用者が多いときに各地区まちづくりのPRをする。
- ・会議で集まるなど利用方法が限定されている。子どもから大人まで利用できる、集まれるような設備があるとよい。
- ・利用者の立場からすると、駐車場の増設が必要。

新たな取組提案・アイデア

- ・地区毎に特色を示し、相互に良い形で競り合う仕組みを作り上げる。
- ・まちづくり活動等に対する市民からの意見聴取、ポストの設置。

第 1 回～第 4 回までに行った取組推進方針に基づく取組の個別検証（まとめ）

【取組】②まちづくり推進組織の活動等についての情報提供

委員による評価	◎取組推進方針について【内容／スケジュール／方向性】 取組み内容について、目的達成、課題を解消していくことができそうか。
／10 人	5. 目的が達成できる。課題が解消できる。発展性がある。(81～100%)
3 人／10 人	4. 目的を達成することが可能だと考えられる。課題解消の期待がもてる。 最大限の取組みだと考えられる (61～80%)
4 人／10 人	3. 目的達成、課題解消をするためには、一部改善を加えたほうがよい (41～60%)
／10 人	2. 目的を達成するためには、不足している部分がある (21～40%)
／10 人	1. 目的の達成が困難だと思われる。効果があまり期待できない (0～20%)
委員による評価	◎取組状況などについて【取り組んだ内容／実績】 取り組んだ内容及び実績について、目的が達成できたか。
／10 人	5. 目的が達成されている。課題が解消できている。発展している。(81～100%)
2 人／10 人	4. 目的を達成するため、このまま継続して取り組むべき (61～80%)
5 人／10 人	3. 目的を達成するため、一部改善を加えて取組を継続すべき (41～60%)
／10 人	2. 目的を達成するため、不足している部分を追加して継続すべき (21～40%)
／10 人	1. 効果があまり期待できない。別の新しい取組を検討すべき。(0～20%)
委員による評価	全体評価
／10 人	5. 目標が十分に達成され大いに評価ができる
1 人／10 人	4. 目標達成に向けた取組ができている
3 人／10 人	3. 一部見直しが必要
／10 人	2. 全体的な見直しが必要
／10 人	1. 取組としての掲載不要
3 人／10 人	その他
自由意見・コメント	
・子どもを含む若者、主婦層を巻き込む更なる工夫が必要ではないか。	
まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の手法について、受け取る市民側のニーズも幅広く、行政は広報みずなみ掲載や市ホームページのみではなく、SNSの活用など工夫をしていく必要がある。 ・行政主導の情報発信だけではなく、市民も自らの手において SNS 活用やクチコミ等により情報発信をし、それぞれの地区の良さを伝えていくことができる。 ・市民は情報に興味を示し、自ら参加することも大切である。 	

市民の役割・市民ができること

- ・情報は多く発信されているが、興味のない方はスルーしてしまう。最低限、広報みずなみには目をとおして情報を得るべきだ。
- ・市民がインスタグラムなどSNSを活用し、それぞれの地区の良さを自ら発信していく。
- ・まちづくり組織への参加と担い手育成。
- ・広報みずなみ、市ホームページを積極的に見て、まちづくり活動の情報を確認すること。
- ・行事等を確認し、自ら参加すること。
- ・自ら進んで情報に興味を示す。

行政の役割・行政がやるべきこと

- ・特に若い人たちが広報や市ホームページを見ていないと思われるので、SNSなど活用して、クチコミで広がるようなホットな情報を流すと良い。
- ・チャレンジ研究室的若い人たちが活動している様子をもっとPRしてほしい。
- ・行政の視点ではなく、市民に取材を行っていただき、市民の視点から発信する方策について工夫すると良い。
- ・市役所各課の連携、協働の推進による連携強化。
- ・各地区まちづくり推進組織が連携した事業への支援（例；中学校区別で南中学なら稲津と陶）
- ・市ホームページだけでなく、フェイスブックの活用など情報発信手法を充実させる。
- ・市民がどれくらい見ているか。見ていない市民をどの様に導くのか。いかに市民参画の呼びかけをするか。
- ・SNS等の操作ができる人材をまちづくり拠点に配置する。
- ・市民の年代も幅広く、情報は1つの発信方法では駄目。紙媒体、電子媒体それぞれに意味がある。
- ・情報発信が待ちの発信方法なので行政側が市のイベント等で呼びかけたり知らせたりする。

新たな取組提案・アイデア

- ・イベントウィークと称して、市内8地区のまちづくり推進組織が同時に同一事業を開催したら面白いと思う。

第 1 回～第 4 回までに行った取組推進方針に基づく取組の個別検証（まとめ）

【取組】③夢づくり地域交付金に若者枠を新たに拡充

委員による評価	◎取組推進方針について【内容／スケジュール／方向性】 取り組み内容について、目的達成、課題を解消していくことができそうか。
／10 人	5. 目的が達成できる。課題が解消できる。発展性がある。(81～100%)
7 人／10 人	4. 目的を達成することが可能だと考えられる。課題解消の期待がもてる。 最大限の取り組みだと考えられる (61～80%)
／10 人	3. 目的達成、課題解消をするためには、一部改善を加えたほうがよい (41～60%)
／10 人	2. 目的を達成するためには、不足している部分がある (21～40%)
／10 人	1. 目的の達成が困難だと思われる。効果があまり期待できない (0～20%)
委員による評価	◎取組状況などについて【取り組んだ内容／実績】 取り組んだ内容及び実績について、目的が達成できたか。
／10 人	5. 目的が達成されている。課題が解消できている。発展している。(81～100%)
2 人／10 人	4. 目的を達成するため、このまま継続して取り組むべき (61～80%)
5 人／10 人	3. 目的を達成するため、一部改善を加えて取組を継続すべき (41～60%)
／10 人	2. 目的を達成するため、不足している部分を追加して継続すべき (21～40%)
／10 人	1. 効果があまり期待できない。別の新しい取り組みを検討すべき。(0～20%)
委員による評価	全体評価
／10 人	5. 目標が十分に達成され大いに評価ができる
2 人／10 人	4. 目標達成に向けた取組ができている
2 人／10 人	3. 一部見直しが必要
／10 人	2. 全体的な見直しが必要
／10 人	1. 取組としての掲載不要
3 人／10 人	その他
自由意見・コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ研究室研究生が各地区のまちづくり推進組織と情報交換をしてくれていることは、地域を知ってもらうこと、現状の課題を認識してもらう上で大変評価できます。大いに期待しています。 ・若者の考えたことを地域だけでなく、市が取り組んでみてはどうか。 ・均等に予算配分するのではなく、事業の有益性、実現可能性等を考慮し、適切に配分することが必要ではないか。 	
まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ研究室の若者の取組みを市民に広く知ってもらうことで、市民がまちづくり活動への理解を深め、自主的な参加につなげていく。 ・若者同士、若者と地域などがお互いに情報交換、情報共有することにより、有益性を高める。 ・予算枠、予算配分の方法について、検証していくことが必要である。 	

市民の役割・市民ができること

- ・チャレンジ研究室の取組み内容を理解すること。
- ・事業提案プレゼンテーションを見学するなど、確認をする。
- ・大学の協力を得ながら、学生を中心に若者を巻き込んで新たな意見を積極的に出すよう心がける。
- ・一般市民には理解しがたい取組みである。そのあたりをどのように説明し理解してもらえるか。
- ・若者が提案する事業に対し、まちづくり推進組織や地域住民の取組みへの参加意識の向上。
- ・チャレンジ研究室の若者への地域情報の提供し、意見交換などを行う。

行政の役割・行政がやるべきこと

- ・金額の見直しが必要ではないか。出来ることが限られてしまうのではないか。
- ・提案事業を実現できるように予算枠を確保すること。
- ・チャレンジ研究室研究員の活動状況を動画などで配信できないか。
- ・地域の方々と若者の協働をいかに推進するか。
- ・担い手の育成強化及び発掘の推進。
- ・空き家等の所有者と企業や起業希望者等を適切にマッチングし、各世代が楽しめるまちづくり事業案を具現化していく。
- ・チャレンジ研究室の大きな枠組みの事業とし、分科会を設けるなどして予算枠は少しでもよいので実験的に自由に使える枠があってもよいと思う。
- ・チャレンジ研究室の若者への情報提供及び指導。
- ・まちづくり推進組織への応援体制には大いに期待しているが、地域性を逸脱するような提案や費用対効果に対する意見交換及び助言を行う。

新たな取組提案・アイデア

- ・若者と地域の方々の交流機会を行政側が提案してはどうか。
- ・チャレンジ研究室研究員同士の意見交換の場を設ける。
- ・駅前等、平日も含め住民が集える仕組みを構築することが重要。
- ・地域とチャレンジ研究室の若者、若い力（事業提案者）とが交流することにより、地域の若者の参加を促す。

第 1 回～第 4 回までに行った取組推進方針に基づく取組の個別検証（まとめ）

【取組】④自治会活動支援

委員による評価	◎取組推進方針について【内容／スケジュール／方向性】 取り組み内容について、目的達成、課題を解消していくことができそうか。
／9 人	5. 目的が達成できる。課題が解消できる。発展性がある。(81～100%)
3 人／9 人	4. 目的を達成することが可能だと考えられる。課題解消の期待がもてる。 最大限の取り組みだと考えられる (61～80%)
／9 人	3. 目的達成、課題解消をするためには、一部改善を加えたほうがよい (41～60%)
／9 人	2. 目的を達成するためには、不足している部分がある (21～40%)
／9 人	1. 目的の達成が困難だと思われる。効果があまり期待できない (0～20%)
委員による評価	◎取組状況などについて【取り組んだ内容／実績】 取り組んだ内容及び実績について、目的が達成できたか。
／9 人	5. 目的が達成されている。課題が解消できている。発展している。(81～100%)
3 人／9 人	4. 目的を達成するため、このまま継続して取り組むべき (61～80%)
／9 人	3. 目的を達成するため、一部改善を加えて取組を継続すべき (41～60%)
／9 人	2. 目的を達成するため、不足している部分を追加して継続すべき (21～40%)
／9 人	1. 効果があまり期待できない。別の新しい取り組みを検討すべき。(0～20%)
委員による評価	全体評価
／9 人	5. 目標が十分に達成され大いに評価ができる
1 人／9 人	4. 目標達成に向けた取組ができている
／9 人	3. 一部見直しが必要
／9 人	2. 全体的な見直しが必要
／9 人	1. 取組としての掲載不要
2 人／9 人	その他
自由意見・コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・人的支援による集落支援員の配置などにより連絡調整がスムーズに回るようになったことは評価できる。引き続き展開されることが望まれるが、更なる工夫も必要である。 ・自治会ハンドブックやQ&A集など、内容も分かりやすく評価できる。 ・若い方にとっては区費負担や役など自治会加入のデメリットが目立つので、防災、防犯、子ども会活動などメリットをいかにうまく伝えるか。 	
まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き人的支援が行われることで、地域と行政の情報共有が図られていくことを期待する。 ・条例にもあるように、住民は自治会に加入するよう努める。 ・区費負担などについては各自治会の規約等によるため、各区が必要に応じて見直しや検討をすることも大事である。 	

市民の役割・市民ができること

・行政からは各種支援や情報提供が行われているが、自治会加入率が低い地域では十分に浸透していない。地域の連携面を考えると、もっと多くの住民が自主的に自治会へ加入しなければいけない。

行政の役割・行政がやるべきこと

・自治会加入に関しては、どこの地区も区費等の費用負担がある。各区の区費にはかなりの差があるようで、負担額が大きい区では加入率低下の一因になっていると思う。そのあたりを調査検討して負担の多少を調整すべきではないか。

新たな取組提案・アイデア

第 1 回～第 4 回までに行った取組推進方針に基づく取組の個別検証（まとめ）

【取組】⑤自治会と行政との連絡調整

委員による評価	◎取組推進方針について【内容／スケジュール／方向性】 取り組み内容について、目的達成、課題を解消していくことができそうか。
／9人	5. 目的が達成できる。課題が解消できる。発展性がある。(81～100%)
3人／9人	4. 目的を達成することが可能だと考えられる。課題解消の期待がもてる。 最大限の取り組みだと考えられる (61～80%)
／9人	3. 目的達成、課題解消をするためには、一部改善を加えたほうがよい (41～60%)
／9人	2. 目的を達成するためには、不足している部分がある (21～40%)
／9人	1. 目的の達成が困難だと思われる。効果があまり期待できない (0～20%)
委員による評価	◎取組状況などについて【取り組んだ内容／実績】 取り組んだ内容及び実績について、目的が達成できたか。
／9人	5. 目的が達成されている。課題が解消できている。発展している。(81～100%)
3人／9人	4. 目的を達成するため、このまま継続して取り組むべき (61～80%)
／9人	3. 目的を達成するため、一部改善を加えて取組を継続すべき (41～60%)
／9人	2. 目的を達成するため、不足している部分を追加して継続すべき (21～40%)
／9人	1. 効果があまり期待できない。別の新しい取り組みを検討すべき。(0～20%)
委員による評価	全体評価
／9人	5. 目標が十分に達成され大いに評価ができる
1人／9人	4. 目標達成に向けた取組ができている
／9人	3. 一部見直しが必要
／9人	2. 全体的な見直しが必要
／9人	1. 取組としての掲載不要
2人／9人	その他
自由意見・コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民と支援職員、支援職員と行政の連絡をこれまで以上にスムーズ化するツールの導入を検討することが重要。 ・情報のメルマガ配信が良いと思ったが、本当に重要な情報がぼやけてしまうという意見もあり難しいとわかった。代案もなかなか思いつかない。 	
まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き人的支援が行われることで、地域住民と行政の情報共有が図られることに期待する。 ・市民は行政まかせではなく、主権者たる意識を持つことが大事。その中で、どれくらいの利益（地域に対するサービス等）が得られているのかも考える必要がある。 	

市民の役割・市民ができること

- ・行政と連合自治会の間では会議等で十分な情報交換、情報共有ができていていると思うが、各地区区長会においてその情報が十分に伝達されているか確認する必要がある。
- ・市民が主体としての意識を高める必要がある。恐らく、現在の利益が理解されていないのではなかろうか。

行政の役割・行政がやるべきこと

- ・支援職員の配置による区長会、まちづくり推進組織への人的支援をいただき大変ありがたい。更には集落支援員とも連絡、情報共有することにより、地域の安心安全の推進に努めていただきたい。
- ・支援職員と市民との関係を更に近づける努力が必要。例えば、市民がどのような利益を受けているのかを理解できるような仕組みを作り上げることが、市民の意識等を高めていくことにつながると思われる。

新たな取組提案・アイデア

第 1 回～第 4 回までに行った取組推進方針に基づく取組の個別検証（まとめ）

【取組】⑥集落支援員制度の導入

委員による評価	◎取組推進方針について【内容／スケジュール／方向性】 取り組み内容について、目的達成、課題を解消していくことができそうか。
／9人	5. 目的が達成できる。課題が解消できる。発展性がある。(81～100%)
3人／9人	4. 目的を達成することが可能だと考えられる。課題解消の期待がもてる。 最大限の取り組みだと考えられる (61～80%)
／9人	3. 目的達成、課題解消をするためには、一部改善を加えたほうがよい (41～60%)
／9人	2. 目的を達成するためには、不足している部分がある (21～40%)
／9人	1. 目的の達成が困難だと思われる。効果があまり期待できない (0～20%)
委員による評価	◎取組状況などについて【取り組んだ内容／実績】 取り組んだ内容及び実績について、目的が達成できたか。
／9人	5. 目的が達成されている。課題が解消できている。発展している。(81～100%)
3人／9人	4. 目的を達成するため、このまま継続して取り組むべき (61～80%)
／9人	3. 目的を達成するため、一部改善を加えて取組を継続すべき (41～60%)
／9人	2. 目的を達成するため、不足している部分を追加して継続すべき (21～40%)
／9人	1. 効果があまり期待できない。別の新しい取り組みを検討すべき。(0～20%)
委員による評価	全体評価
／9人	5. 目標が十分に達成され大いに評価ができる
1人／9人	4. 目標達成に向けた取組ができている
／9人	3. 一部見直しが必要
／9人	2. 全体的な見直しが必要
／9人	1. 取組としての掲載不要
2人／9人	その他
自由意見・コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪、土岐、明世地区のまちづくり活動の拠点施設ができ、地域の窓口として集落支援員が配置されたことは評価できる。 ・土岐地区については、今後さらに市民を活用し、積極的に課題解消に向けたシステムを構築することが必要である。 ・集落支援員の配置により、地域のホームページ更新などが頻繁にされるようになって興味を持つことができるようになった。 	
まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> ・集落支援員は支援員同士の連絡を密にし、他地区の取組事例を地域に紹介していくなど、情報共有、情報発信に努める。 	

市民の役割・市民ができること

- ・課題、希望等を積極的に主張する。
- ・集落支援員を配置していただきとてもありがたいが、今のところ地域住民と直接的なつながりがないため、多くの市民がその存在を知らないと思う。

行政の役割・行政がやるべきこと

- ・課題を集め整理し、対策を具体的に検討すること更に進める。
- ・集落支援員は各地区から推薦された方々なので、地域の実情を分かっていると思うが、他地区の支援員と情報交換をし、他地区で行っている良い取組みを、自地域にもっと多く紹介した方が良い。

新たな取組提案・アイデア

- ・集落支援員同士の情報交換がされるとよい。